

回顧15年 その3 (昭和62年~平成3年)

中尾 佐之吉

この「ふれあい新聞」も昭和62年から始まった。当時、技能開発センターの井出 正成さんの好意で、パソコンを使っての印字からコピーまでの作業を全部引き受けてやって下さったので出来たのである。それからずっと現在まで、井出さんが転出されても皆さんの協力で発行できた。有難いことである。

また、62年度から、この地区の区画整理事業も始まった。これ以来、田中野田は大きく変貌していくのである。このことを含めてこの5年間は「ふれあい新聞」を通じてその都度お知らせしたので、今も思い出に残る主なことのみをふれてみることにする。

町内会年次別支出額 (第3期関係) 金額単位:千円

年度	62	63	平1	平2	平3
安全衛生	263	130	70	115	225
団体助成	17.5	176	177	206	206
レクリエーション	562	238	660	229	714
共同募金等	83	75	103	95	95
備品等	142	0	0	130	0
その他	203	225	129	187	108
合計	1,428	844	1,139	962	1,348

第3期 町内会役員

年度	61-62	63-平1	平2-3
理事	会長 中尾佐之吉 1組 栗本 保男 2組 横野 良典 3組 原 末隆 4組 中原 広行 5組 西崎 郁 6組 和気 次夫 7組 中尾 美子 8組 植田 孟彦 9組 木村 強	中尾佐之吉 和気 次男 和気 茂 大森 郷 上中田和彦 光延 秀雄 武山 晃 白石 武成 数内美智子 角田 定一	中尾佐之吉 濃野喜久子 久山 操 中尾 忠義 卯善 剛 野瀬 良章 裏辻 太 秋山 要 福富 勉 遠藤 欽也
監事	原 渥美 吉岡 清	原 渥美 吉岡 清	原 渥美 吉岡 清 和気 督祐

- 昭和62年 7月にグラウンドの倉庫が丸焼けになった。原因は不明。この年、「夏まつり」に初めて「まつり太鼓」登場。
- 63年 昭和天皇ご病気のため秋まつり行事自粛。
12月、区画整理事業で公会堂を取り壊す。
- 平成1年 2号公園用地内に公会堂を仮設。
- 2年 9月、台風19号により低地で浸水被害をうける。
- 3年 岡山市の援助により、街灯を22基増設する。
7月から福祉センターの協力を得て、空缶の分別回収を始める。
9月、またまた台風19号により屋根瓦が吹き飛ぶなど大きな被害をうける。

素顔のままに こんにちは

中尾光子さんをお訪ねして

お家を新築中のお忙しいところをお邪魔させていただきました。今までお住まいのお家は慶応年代に建てられた築後130年という建物であったとのこととびっくりしてしまいました。長い年月住み慣れたお家を壊すというのはつらいことだったでしょう。「今度の家は小さいですよ」と、おっしゃいますが、私には、うらやましい気持ちでいっぱいでした。

まずは、期待していました、ご主人とのなれそめとその頃のお付き合いをお尋ねしたかったのですが、うまくはぐらかされてしまいお聞きすることはできませんでした。

中尾さんが嫁がれた頃は田中野田は40所帯ほどで、田中の本村(現在の田中)に対し小村(田中野田)と呼ばれていました。近所には八百屋さんが1軒と魚屋さんが自転車ですり回っていただけで、少し大きなものは、大元まで買いに行ったそうです。冷蔵庫もない頃、大変だったと思います。そんな中で三人の子どもさんを育てられ、ご主人が町内会長になられて退任されるまでの15年間のご苦労も並々ならないものがあると思いましたが、にこにご笑顔で「お陰様で平凡な人生でした。私は、ただついてきただけですの、みなさんに聞いていただくような苦労はなにもありません……」と淡々とおっしゃいました。しかし、平凡に暮らしていくということほど、むずかしいものはないと思います。それを、しあわせということにも換えられると思うからです。

最後に今の若いお母さんへ子育てのアドバイスをいただきました。「私には何もそんな、だいそれたことは言えません。それぞれの家庭でいろいろあるし、生き方、考え方も違うと思います。子育ても今のお母さんは大変だと思います。」と、おっしゃっていましたが、最後に一言「でも……子どもさんの立場で考えてあげてほしい、ほめてあげることを第一にして、人格を認めてあげる……」

私も思春期の子どもがいるものとして頭ではわかっていてもなかなか実行できずにおりました。中尾さんの、きおらない生き方、私もこんなふうにならなればよかったらいいなあ、と感じるひとときでありました。

田んぼや、たまに行ってらっしゃる公民館の講座などでお会いしたとき、そのときこそは、「こんにちは…」と手を振って、ご主人の最大の魅力、ひかれたところを、ぜひお聞きしたいと思いました。

訪問者 佐藤あつ子



葵(しつけ)について

中原 広行

23号

6月に入り、梅雨入り宣言がなされたものの雨らしい雨も降らず、我々サラリーマンにとって好都合であるが、作物等にとっては水が好ましい時期でもあろう。

暑い時期は子ども会行事また各種団体が活発に活動し、お互いに親睦を図る時期でもある。こうした中において、我々育成者はどこかに視点を向け明るく住み良い町内づくりに励みたいものである。

ここに強く感じることは、青少年問題の事が頭中に残る。

現在学校5日制の問題、登校拒否の問題、非行の問題等色々諸問題が提言されており、我々はこの様な問題をどの様な方法で解決しなければいけないのか、大人達が全員で協力しあって、何事にも見て見ぬ振りをしないで勇気を出して声を掛けてほしい。

子ども達にもそれぞれの短所・長所があり一人一人の個性が異なるものがある。これは大人にも言える事であらう。悪い事をすれば叱り、良い事をすればすぐに誉めてやる、これが躾の原点だと思う。

「三つ子の魂百まで」の言葉通りに行けば良いが、今現在では無理であらう。親が可愛がり祖父母が可愛がれば、子どもは甘えん坊の子どもが出来るだろう。(一長一短)

教育には学校教育・社会教育・家庭教育と3本柱の教育があるが環境変化に伴う教育が必要であらう。

子ども達に、忍耐、能力、常識を身につけさせるには、家庭教育の一環として6年生までには仕上げておかなければいけない。中学なれば遅いと思う。親御さんは大変だろうと思うが、これが親の任務であり責務でもあると思う。田中野田町内会を背負う若者の為に頑張ってください。

我々町内会育成者は一丸となり、社会的活動を通じ子ども達の為に頑張りたいと思う。

< 子ども会バザーのお礼 >

子ども会育成会会長 光延 秀雄

さる6月14日恒例のバザーを開催いたしました。町内の皆様方のご協力で今年も盛況に開催することができ、予期以上の収益が得られました。役員一同厚くお礼申し上げます。この収益金は今後の子ども会活動に有意義に運用させていただきます。今後とも、子ども会・子ども会育成会にたいしましてより一層のご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

編集後記

梅雨が終わればよいよ夏本番です。

4月にスタートした新役員体制も、はや3カ月。まごつきながらも精一杯がんばっています。「ふれあい新聞」も(新)編集委員会が発足して第1号をだすことができました。

なにしろ新聞と名がつくものは小学校の校内新聞以来で、お見苦しいところがあるとは思いますが、ご容赦ください。

あと任期2年の間、読んで楽しい町内報として発行するつもりですので、町内の皆様方の多数の原稿をお待ちしております。

編集委員 和気 清寿一、佐藤 新治、植田 千佳子
光延 秀雄、横野 良典